

ベンチャー企業の上場意志に関する統計学的考察

京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 竹本拓治

世界的な金融危機の影響を受け、わが国においても全体経済の成長に陰りがみえる。そのような中、中長期的なわが国経済の持続維持のためには成長意欲のあるベンチャー企業に対し、リスクマネーを如何に効率よく供給するかを考え、そのための諸条件の整備とそれらの各条件のマッチングが必要である。このようなマクミランギャップといわれる成長途上企業の資金調達問題に対するアプローチには様々な試みが存在するが、当発表においては、企業財務の視点からベンチャー企業の上場意志に焦点を当てる。

当論文では上場を視野に入れることが可能な規模に成長しつつある中堅ベンチャー企業、ならびに独自の技術を有している、または高い志をもったベンチャー企業をサンプルとした。そしてそのような企業群の上場意志とそれらの財務データ比較を手がかりとし、当該問題解決の成果を求める。

予め断るべき点は、実はベンチャー企業が全体として示す上場意志とそれらが公表する会社データとの相関は決して強いものではなかった。しかしながら上場意志という単一の項目をとってみると、例えばカテゴリー分けを業種とした場合にかなりの差が存在した。さらに企業規模に応じて、また株主構成によっても上場への意識に変化が生れる可能性が存在する。そのような個々の要因との関わりを調べることにより、ベンチャー企業の金融問題解決に向けた新たなブレークスルーの可能性がある。

当発表が、金融政策主体や各種金融機関からわが国のベンチャー企業への活発な上場支援につながる何らかの一助となり、その結果、ベンチャー企業の成長、そして日本経済の活性化へと結びつけば幸いである。